

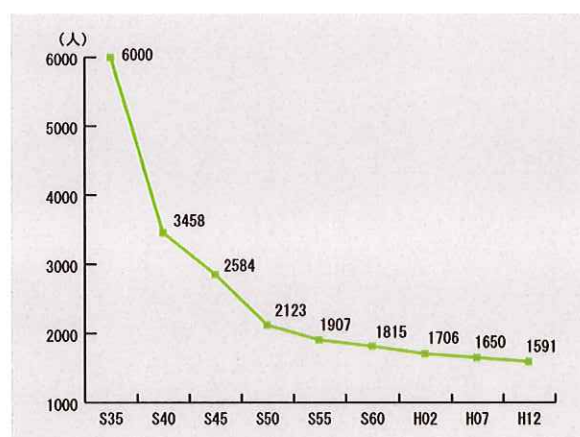
(2) 北川村

北川村の概要

北川村は、高知市からは約 65 k m 東方に位置し、総面積は 196. 18 k m²で、南は田野町、奈半利町、室戸市に、西は安田町に、北は馬路村に、東は東洋町、徳島県穴喰町に接しています。

北川村の気候の特色は、降雨に恵まれた地域ということです。年間降雨量 3000 から 4000 ミリとなっており、奈半利川の上流域は年間降雨量 4000 から 5000 ミリと全国でも有数の多雨地帯で、森林資源の蓄積も豊富な地域となっています。

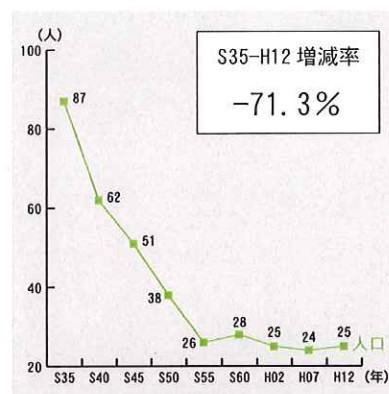
北川村の人口は、奈半利川電源開発事業の最盛期であった昭和 35 年には 6000 人にまで増え、一時電源開発景気に沸きましたが、その後ダムの完成、国有林事業の統廃合により人口の減少が続き、平成 12 年現在の人口は 1591 人、人口構成は、若年比率 11. 9%、生産年齢比率 51. 4%、高齢化率 36. 6%となっています。



北川村は、公共土木、林業の衰退に対して、昭和 40 年頃からユズの生産に活路を求め、全国屈指のユズの産地として知られるようになりました。平成 7 年国勢調査による産業別就業者比率は、第一次産業 45. 5%、第二次産業 18. 4%、第三次産業 36. 1%であり、第一次産業（農業）の比率が高いことが特徴といえます。しかし、近年では競合産地の増加、安価な外国産の出現等から一時の勢いは失っています。

また、村の産業別総生産額のうち、電気・ガス・水道分野に該当する電源開発株式会社の占める割合が非常に高くなっているのも特徴です。

久江ノ上 -kuenoue-



年次	総戸数	総農家数	専業農家数	第1種兼業農家数	第2種兼業農家数	非農家数	経営耕地面積
S45年	10	9	0	2	7	1	1,390
S50年	-	9	0	2	7	0	1,287
S55年	9	9	3	3	3	0	766
S60年	-	9	3	2	4	0	690
H02年	11	9	4	3	2	2	655
H07年	-	9	5	2	2	0	579
H12年	9	9	-	-	-	-	603

(資料：農業集落カード)

集落の概要

久江ノ上は、村役場の北東方向、道路距離で約 26.5 km に位置し、奈半利川沿いに走る主要地方道安田東洋線に接する集落です。

集落の平成 12 年現在の人口は 25 人で、若年比率 12.0%、生産年齢比率 40.0%、高齢化率 48.0% と少子高齢化が進行しています。

集落では主にユズの栽培によって生計を立てている専業農家が多くいます。昭和 50～55 年頃にかけて、集落の耕作面積が激減していますが、これはユズの本格的な栽培に取り組むために山間部の耕作地を放棄したことによります。その頃から、集落内で専業農家が増えてきました。

集落内にはユズづくりのリーダーもおおり、無農薬栽培に取り組みながら醤油メーカーや京都の和菓子の老舗などと比較的有利な取引を行いながら契約栽培を進めています。

その他の農家についてもそのほとんどがユズ農家となっており、ユズで生計を立てている集落といえます。久江ノ上で行った単一作目の特化は、失敗したときのダメージが大きいため、ある面では大変危険な農業のやり方です。しかし、無農薬栽培など、特徴的な農業をおこなうことで、メーカーとの契約栽培に漕ぎつけ、安定性のある、収益の高い農業に取り組んでいる農家があります。

特徴的な取り組み

① 目的による集落のネットワーク

久江ノ上で行っているユズの契約栽培は、メーカーの無農薬栽培に関する厳しいチェック項目をクリアする必要がありました。この集落のグループの場合、集落内に無農薬栽培を一緒にやっていく農家が見つからなかったため、村全体で賛同者を募り、結果、距離的には離れた 2 つの集落の生産者グループと組んでメーカーとの契約栽培を行っています。

隣接する集落同士が歴史的、地理的な関係から協力して一つのことに取り組むことはよくありますが、この集落の取り組みのように、「無農薬栽培」という目的によって距離的に離れた集落のグループが協力し合う取り組みは、今後集落同士のネットワークの取り方としても参考になる面があると考えます。

② 通勤農業

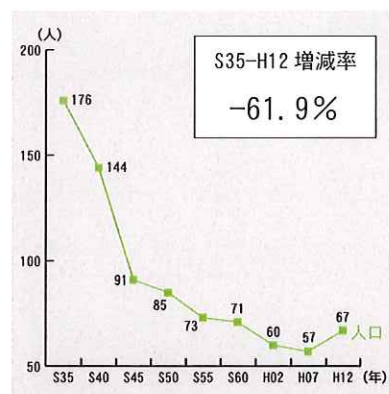
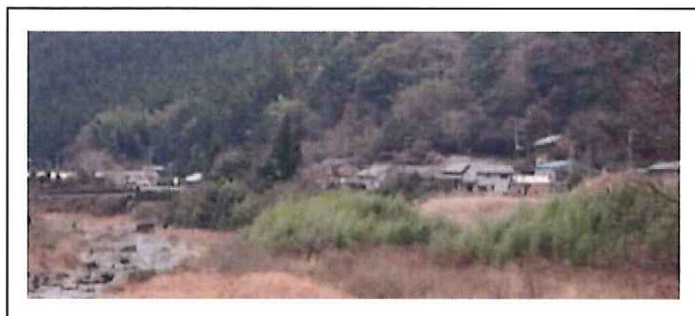
久江ノ上では、現在は集落外に住んでいる集落出身者が集落に通勤しながらユズの栽培を行っている「通勤農業」の形態が見られます。このような農業形態は今後も集落出身の退職者で集落に土地を持っており、通勤可能な場所に居住している退職者などを中心に今後も一定増加する可能性が考えられます。

集落の今後・・・

ユズの栽培と販売に成功した農家がいるものの、集落では既に高齢化が 50%に迫っ

てきており、集落内に若者がいないことから、今後は高齢化による急激な人口減少が予想されます。ユズの栽培については、集落出身者で親の後を継ぐ人や退職者で通勤農業を行う人が出てくることで、今後も一定続けられるものと思われます。

和田 -w a d a -



年次	総戸数	総農家数	専業農家数	第1種兼業農家数	第2種兼業農家数	非農家数	経営耕地面積
S45年	32	25	1	3	21	7	1,330
S50年	-	23	3	0	20	0	1,334
S55年	29	23	4	0	19	6	1,264
S60年	-	20	4	4	12	0	1,114
H02年	25	18	5	0	13	7	1,046
H07年	-	19	6	2	11	0	1,215
H12年	27	18	-	-	-	9	1,141

(資料：農業集落カード)

集落の概要

和田は、村役場の北東方向、道路距離で約 10.3 km に位置し、奈半利側沿いを走る国道 493 号線に接する集落です。集落内にはグラウンド、釣り堀などが整備された村立和田自然公園がありますが、利用状況は低調のようで、ほとんど使われていないような状況です。また、近隣の集落にはキャンプ場や泉質日本一のキャッチフレーズを掲げる北川温泉があり、村内では観光拠点の一つとなっている地域に隣接しています。

集落の平成 12 年現在の人口は 67 人で、若年比率 10.4%、生産年齢比率 47.8%、高齢化率 41.8% と少子高齢化が進んでいます。

集落には以前、営林署があり、現在でも集落から森林管理署に通っている人が 2 名、営林署退職後に農業を営みながら生活している人が 5~6 名います。また、村役場 (2 名) や消防署 (2 名)、村営の温泉施設 (1 名) に勤める人もおり、公共サービスに関わ

っている人が比較的多い集落となっています。特に、集落内に営林署があったことで、大きな雇用の場となっており、営林署が廃止された現在でも、その退職した職員の方が年金をベースにしながらユズの栽培などを行って生活していることが、他集落と比べて人口減少率が低いことの要因となっているようです。

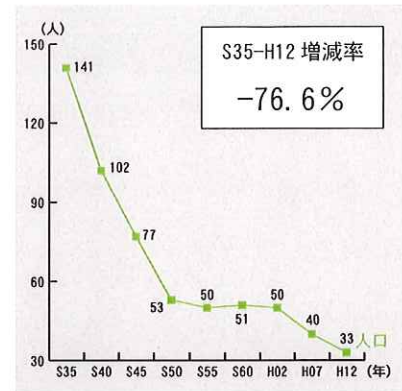
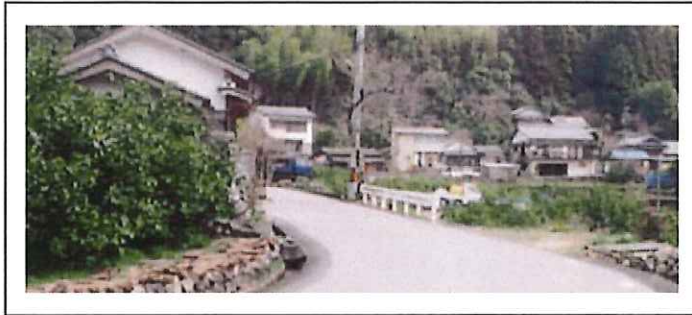
特徴的な取り組み

特にありません。

集落の今後…

現在の集落の減少率が比較的低いのは、集落内に郵便局があったためであり、今後、その関係者は集落に一定住み続けることが予想されます。しかし、集落内には現在雇用の場もなければ、生計を立てていけるような農業基盤もありません。よって、今後は高齢化が着実に進展し、将来的には急激に人口が減少するものと考えます。

平鍋 - hiranabe -



年次	総戸数	総農家数	専業農家数	第1種兼業農家数	第2種兼業農家数	非農家数	経営耕地面積
S45年	24	17	0	8	9	7	1,060
S50年	-	14	4	0	10	0	1,040
S55年	15	13	2	3	8	2	912
S60年	-	14	0	5	9	0	861
H02年	18	12	4	1	7	6	665
H07年	-	11	6	0	5	0	752
H12年	17	11	-	-	-	6	742

(資料：農業集落カード)

集落の概要

平鍋は、村役場の北東、道路距離で約 16.7 km に位置し、奈半利川沿いに走る国道 493 号線に接しています。集落のすぐ南には電源開発(株)平鍋ダム、東側には二又発電所があります。

集落の平成 12 年現在の人口は 33 人で、集落には現在子供が 3 人いますが、学校が統廃合され、村中心部へ通学しなくてはならないため、帰りが遅くなると中心集落にある祖父母の家に泊まっているという状況です。集落の人々にとって地域にある学校は行事の際などに住民が集まるコミュニティーの場としての機能がありましたが、村内一校となったため、周辺部の集落では子供を中心としたコミュニティーが無くなってきています。

集落内には郵便局があり、昭和 60 年までは、集落から 7 名が職員として働いていま

した。現在は無配集となり、局長と事務員（村外より通勤）の2名となっていますが、郵便局を退職した人たちは集落に残り、ユズの栽培と年金によって生計を立てています。

公共土木について見ると、大きな公共工事として平鍋ダムの建設があげられますが、その土木作業員等については、村外から流入してきた人がほとんどで、集落の住民にとっては雇用の場とはならなかったようです。その後も、公共土木によって集落に仕事が生まれるようなことはなく、農業もそれだけで生計を立てられるほどではなかったため、結局、郵便局の関係者によって人口が維持されているといえる集落です。

特徴的な取り組み

特にありません。

集落の今後…

現在の集落の減少率が比較的低いのは、集落内に郵便局があったためであり、今後、その関係者は集落に一定住み続けることが予想されます。しかし、集落内には現在雇用の場もなければ、生計を立てていけるような農業基盤もありません。よって、今後は高齢化が着実に進展し、将来的には急激に人口が減少するものと考えます。